

全体概要

第1章 計画策定にあたって

【計画策定の背景】

- ・少子化
- ・核家族化
- ・女性の社会進出

子どもや家庭を取り巻く環境の変化

【課題】

- ・育児不安の増加
- ・児童虐待の発生
- ・思春期の健康問題

国 健やか親子21策定
(12年11月)
県 母子保健事業指針策定
(13年3月)

【本市の状況】

- ・乳児死亡率（出生千対2.7）
- ・周産期死亡率（出産千対6.2）
- ・20歳未満の人工妊娠中絶実施率（15歳～20歳未満の女子総人口千対20.2）
ともに全国平均より高い傾向にある。

安心して、「妊娠」「出産」「育児」を行うために、関係機関と連携を図りながら、母子保健対策を実施していく必要がある。

【計画策定の趣旨】

- ・妊娠、出産、育児をとらえて、親と子が心身ともに健康を保ちながら豊かな人生が送れるよう、市民自らが積極的に子育てに取り組むとともに、社会全体が一体となって「子どもの育ち」を支援するための指針である。
- ・健康うつのみや21の推進と併せて、市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むための指針である。

【計画の位置付け】

- ・国の「健やか親子21」の地方計画
- ・市総合計画基本計画の部門別計画

【計画の範囲】

おもに、妊産婦とそのパートナー及び乳幼児から小学生・中学生・高校生までの児童とその親

【計画の期間】

平成16年度（2004年）～平成22年度（2010年）

第2章 計画の基本的考え方

- ・「妊娠・出産期（胎生期）」「乳幼児期」「青少年期（思春期）」の3つのライフステージ区分を設定する。
- ・ライフステージごとに、市民の将来像を示した基本目標を設定する。
- ・現状と課題を明らかにし、健康目標、目標値を設定する。
- ・健康目標を実現するため、個人や家庭、地域・学校・職場・行政などの立場から取り組んでいく方向性を示し、行政が取り組む事業を設定する。

第3章 本市の母子保健の主な現状

18歳未満の子がいる世帯に占める核家族世帯の割合75.9% 婚姻率（人口千対）8.2 離婚率（人口千対）2.49
出生数4,849人 合計特殊出生率1.49 出生数に占める低体重児の割合9.1% 複産児の出生割合1.09%
母親が20歳未満の出生割合1.6% 母親が35歳以上の出生割合11.8%

第4章 ライフステージ

基本目標【妊娠・出産期（胎生期）】

安心して妊娠・出産ができる

主な現状・課題

- 妊産婦の健康に関すること**
 - ・妊婦健診（後期）異常なしの割合 62.8%
妊娠中などの異常の予防や早期発見が必要
 - ・喫煙している妊婦の割合 6.5%
喫煙しないことが必要
 - ・妊娠中から、母性健康管理指導事項連絡カードを知っている人の割合 16.8%
必要な制度が受けられることが必要
- 計画的な妊娠に関すること**
 - ・人工妊娠中絶実施率（15歳～50歳未満の女子総人口千対） 16.7
計画的に妊娠でき、パートナーと喜び合えることが必要

健康目標

妊娠中や産後の健康管理が適正にできる
望んだ妊娠・出産をすることができる

主な目標値 ・妊婦健診（後期）異常なしの割合 62.8% 72.6%
・人工妊娠中絶実施率（15歳～50歳未満の女子総人口千対） 16.7 11.8以下

健康目標を実現するための取り組み

健康目標を実現するため、個人や家庭、地域・学校・職場・行政などの立場からの取り組み

行政が取り組む事業

健康目標を実現するための取り組みに対し、行政が取り組む事業

【乳幼児期】

元気で心豊かに成長できる

子どもの発育に関すること

- ・午後10時以降に就寝する幼児の割合 37.7%
早寝、早起きの習慣を身につけることが必要
- ・朝食を欠食している幼児の割合 4.0%
毎日きちんと朝食をとることが必要
- ・3歳児健康診査の受診率 88.0%
健康診査を受けることが必要

保護者の子育てに関すること

- ・育児が楽しい、どちらかというと思える人の割合 82.0%
ストレスや悩みを解消し、楽しく子育てができることが必要
- ・子育てと仕事の両立がうまくできていると思う人の割合 父51.2% 母65.6%
働いていても、子育てできる環境整備が必要

丈夫な身体をつくり、豊かな心を育むことができる
ゆとりをもって子育てができる

主な目標値 ・3歳児健康診査の受診率 88.0% 100%
・育児が楽しい、どちらかというと思える人の割合 82.0% 100%

【青少年期（思春期）】

心身とも健やかに成長できる

性に関すること

- ・人工妊娠中絶実施率（15歳～20歳未満の女子総人口千対） 20.2
10代から、性の正しい知識を身につけ、望まない妊娠や性感染症をさけることが必要

心と身体の成長に関すること

- ・自分なりにストレス解消法を身につけている中学・高校生の割合87.7%
ストレスを強く感じる環境の改善及びストレスの解消方法を身につけることが必要
- ・喫煙者の割合 中学生5.2% 高校生14.0%
未成年者が喫煙の健康影響を正しく理解し、喫煙をなくすことが必要

生命を尊び、自分らしく生きることができる
規則正しい生活習慣を身につけることができる

主な目標値 ・人工妊娠中絶実施率（15歳～20歳未満の女子総人口千対） 20.2 13.0以下

健康で幸せなまちづくりの実現